

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(気持ち)(心)を基本理念として、「ぬくもり、やさしさ、安心そして地域とのふれあい」をモットーに、利用者が穏やかに安心して暮らせるよう心がけている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新旧問わず、職員がミーティング時に理念の実践に向けてのケアに取り組めるよう話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者の家族はもちろんの事、近所、通りがかりの人など、いつでも立ち寄り見学していただけるよう取り組んでいる	玄関やリビングに「こころ」「ぬくもり、やさしさ、安心、そして地域とのふれあい」を大きく書にして掲示している
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時には必ず気軽に挨拶を交わしたり、季節の農産物のおすそ分けを頂いて日々の料理に活用させていただいたりしている	餅つき大会や盆踊りは広い中庭にてオープンに行う為、通りに近所の方が見たり気軽に参加できるようにしている。また事業所に来られる舞踊やフラダンスなどのボランティアの行事ごとに、近所の皆さんに回覧板等で事前に告知を行い、気軽に立ち寄ってもらえるよう取り組んでいる
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の小学校の運動会や卒業・入学式には出来る限り顔を出すように心がけている。また、地域の方々から盆踊り、餅つきなど季節の行事にも参加協力を頂いている	老人会の方が折を見て中庭の雑草駆除のボランティアをしてくださっている
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業者や職員の力で何か役立つ事はないか、意見などを出し合っている	高齢者が地域で安全に安心した生活が営めるよう、地域の福祉事業所での「徘徊ネットワーク」に参加している。また、近所の小学生が年に数回親睦会に来られ、認知症を含む社会教育の一環に携わっている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>年に一度、職員一同で外部評価の前の自己評価を実施し、その意義を理解しながら改善に取り組むようにしている</p>	<p>職員一同、普段無意識に行っているケア業務を改めて見直す機会と心得て、毎年の評価の活用に取り組んでいる</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一度会議を設けている。会議にて出た議題への意見や状況報告を現場でのケアに活かすようにしている</p>	<p>地域・事業所行事へのお誘いや、前回の会議であがった議題への取り組みのモニタリング報告、最近の懸案事項を含む利用近況報告などを主に、二ヶ月に一度のペースで行っている</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>公の機関主催のケア向上の研修の案内などには出来る限り参加をするようにしている。</p>	<p>年に一度、町の福祉イベントに事業所として参加し、グループホームの日常を広く知っていただく機会を提供していただいている。また毎年家族介護教室の講習依頼を受け、地域密着のケアサービスへの連携を図っている</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護・成年後見人制度の研修があるときは、必ず参加するようにしている</p>	<p>ホーム長やケアマネージャーなど権利擁護や成年後見人制度への知識がある者が、機会があるごとに職員への説明をするようにしている</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者を日頃から見守り、心身に変化が無いが注意・確認をしながら虐待防止に努める</p>	<p>ホーム長や管理者・職員で、日頃のケアや対応を通してさまざまな虐待についての話やミーティングの機会を設け、理解浸透を図るようにしている</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>出来る限り利用者や家族の方に満足ができるよう、十分納得ができるよう説明するように努めている。退所にいたる際には十分な話し合い、今後の対応についての相談などにも誠実に対応するように心がけている</p>	<p>契約前に、事前に契約書をお渡しし熟読をお願いした上で、口頭での説明と合わせて事業所として出来るサービス、出来かねるサービス、契約解除の際の注意事項などの理解を深めていただけるように努めている</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの細かな声掛けで利用者の思い(希望や不満)を読み取れるように取り組んでいる		自分の気持ちをうまく表出できない利用者には、特に言動から伝わる思いを汲み取るようにし、利用者本位の運営理念に活かせるよう一層努力をしていきたい
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には出来る限り、利用者の日頃の生活の様子や病院受診結果を含む健康状態の報告などを行うようにしている		毎月の利用料受領時に、毎月の個人預り金の出納明細を発行している。また、今までは玄関のコルクボードに掲示していた事業所便りを、出納明細書・利用料受領書と併せて各家族にお渡しするようにしている
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに家族のための意見箱を設置している。また家族が来られたときには要望や苦情を表せるよう声掛けを行う		今年度、管理者が苦情対応の研修を受講。翌月のミーティングにて「苦情は宝」の考えを全職員に伝え、玄関ホールに「福祉サービス苦情解決制度のご案内」のポスターを掲示。今まで以上に要望・苦情が言いやすいように努めたい
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、合同ミーティングと各部所のミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている		職員の異動や勤務体制の変動時には、事前に職員に意見を聞き、それを反映できるよう努めている。また、言葉にはし辛い不満や苦情が無いが、日頃からコミュニケーションをとり、解決できるように図りたい
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ボランティアによるイベントや、外出を含むレクリエーション時に応じて職員勤務の変更を行い、十分な対応ができるように心がけている		季節や天候に応じての利用者の楽しみや生活パターンを優先し、その時々話し合いによって勤務時間を融通したり人員を厚くする工夫をしている
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケアの充実や離職などによるやむをえない異動の際は、利用者に不安を与えないように説明を行い、今後のケアに支障が無い様に努める		基本的に顔なじみの職員の配置を行う事で、落ち着いた生活の援助を目指しているが、やむをえない異動等には出来る限り利用者に影響の少ない時期を選ぶようにし、利用者への声掛けや挨拶を行うなど異動前後のケアに大きな支障や変化が無いよう配慮する
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員採用にあたって、年齢・性別の制限はしていない。また、社員の仕事への思い、それ以外にも将来への希望などを汲み取る事が無いよう、日頃からのコミュニケーションを通じて把握・保証できるよう心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に具体的なケアの実践例や同業者の昨今のニュースを通じて、職員全体の人権教育への意識の向上を目指している	人権を尊重する事の大切さ、個人情報保護について、職員に指導を行い、書類の管理にも注意を払うようにしている
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じた研修の参加を促している。研修に参加した職員は、ミーティングでその内容を報告するようにしている	会員制度の年数回の研修には出来る限り交代で多くの職員に受講してもらうよう計画している。合同ミーティングで発表・報告をし、記録に残す事で、職員全体のスキルの向上を目指している
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の福祉イベントや家族介護教室に進んで参加し、地域の同業者と交流を持つようにしている	地域の方から入所や入院を含む介護に関する相談を受けた時は、状況に応じて病院や他のグループホームや施設に連絡を取り、協力できる体制にしている
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士で積み立てを行い、年に数回の懇親会を実施し、ストレス軽減とコミュニケーションを図っている	一日の勤務の中で気分転換できる休憩時間を、以前より確保できるようになった。常に変化していく利用者の状況に、ストレスの感じ方が個々に違うことを理解した上で、一人で抱え込まないチームケアを充実していきたい
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は一日数回現場に顔を出して、職員の勤務状況を把握し、個々の努力にたいしても励みやねぎらいの言葉をかけている	職員の向上心を維持できるように資格取得のための勤務調整などの支援をしたり、各職員の資質や個性に応じた職場の環境調整を図っている
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の言動や表情に気をつけて、どんな事を希望し、どんな事に不満を持っているのか、状況変化を見ながら信頼関係が築けるようなケアを目指している	利用初期は特に不安や疑問など強くなることを理解し、まずは落ち着いた環境で食べ物や趣味など共通の話題から安心できる声掛けを行い、答えやすい会話を徐々に重ねていくうちに馴染みの関係になるよう心がけている
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階から出来る限り家族の方と会話をするように心がけ、コミュニケーションをとって馴染みの関係になれるようにミーティングなどで全職員に呼びかけている	入所以前のホーム見学時や事前の申し込み時から、現在家族がどんな事に困ってこの先どんな希望を持っているのかを出来るだけ把握し、疑問などには誠実に答えられるよう努力していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時の本人と家族の思いを汲みながら、緊急に対応が必要な問題にはすぐに出来る改善の提案や、困難な問題には共に解決方法を出すように努力している		入所以前のホーム見学时や事前の申し込み時から、現在本人と家族がどんな事に困ってこの先どんな希望を持っているのかを出来るだけ把握できるようにし、早期にケアプランを立案。モニタリングを行いながら職員が情報を共有できるようにしている
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得て利用者の人柄や昔の話を聞き、少しずつホームの雰囲気に馴染めるように努めている		入所手続き前に本人と家族には必ずホーム見学をお願いしている。入院治療中でホーム見学が困難な場合も、ホームから職員が病院に面会に行ったり、入所サービス開始時も本人の希望があれば短期の体験入所を行い、徐々に馴染んでいただいてから継続して入所へ移行する制度も用意している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する立場であっても、利用者に癒されたり元気をいただいたり、同じ目線・立場でお互いが支えあっている		カーテンの開閉や食事前の台拭きなど、個々の向上心や残存機能を尊重した暮らしをしている。一緒に生活することで、利用者の心の底の喜び・苦しみ・不安等を理解し、その上に成り立つ、お互いが支えあう穏やかな生活を目指していききたい
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者に対する思いを日頃のコミュニケーションを通じて理解するようにし、その気持ちを汲み取るようなケアを行っていききたい		家族の方が知ることの出来ない利用者の「日常」を、面会に来られた時の声掛けや、月に一度の「かえで通信」を通して、家族と職員が共有し、共に支えあうケアに努めている
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者がより良い関係を築けるように、家族も面会に来やすいような、笑顔での対応に努めている		家族の面会時には、利用者とうっくりしていただけるように居室やリビングでお茶を飲んでいただいたり、家族との外出や外泊、電話や手紙などの交流を支援している
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた地元や友人・知人の住んでいた場所にドライブしたり散歩する機会を作っている		個々の利用者の昔の思い出話に出て来る人物や場所を把握し、時々職員側から質問をしながら思い出話を楽しんだり、こだわりの店で買い物や支援するなど、本来の生活歴の延長にグループホームがあるように努めている
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	穏やかに過ごしていただけるように、相性に応じて居間での席などの環境を整えている。利用者同士で争いが起こったときは、職員が裁く事無く穏やかに仲介し、どちらの利用者の心にもストレスが残らないように心がけている		それぞれが本来持っている生活歴や価値観の違い、一日の生活パターンや気分の波などを掴み、それに応じて穏やかな共同生活を支援するようにしている
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院による退所の場合は、利用者本人と家族の許可を得て顔なじみの職員がお見舞いに伺う様にしている		長期入院による退所のときは、退院の時連絡をいただければその後の介護方針を含め、出来る限り協力させていただく旨をお伝えしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好きな事や趣味などを把握し、出来る限り利用者の希望に応えるように努力する	気持ちをうまく表出できない利用者には、表情などから思いを読み取ったり家族にも意見をいただいて、出来る限りの「利用者本位の生活」の把握と実施に努めたい
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から、これまでの生活歴や性格などを伺って、入所前までの利用者の暮らしの把握に努めている	プライバシーに触れる事になるので、本人や家族に話を伺うときには細心の注意を払うようにしている。言えない(言いたくない)話などは、お互いの信頼関係を築きながら徐々に聴くようにし、興味本位にはなく本人のケアに活かせるように心に留めていきたい
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の出来事や変化は、朝・夕の申し送りの報告で共有し、ケース記録に残すようにしている	活動や体調に変化があった時だけでなく、本人から発せられる発言や笑顔、お手伝いへの参加などの感情の動きも本人の言葉や言動を忠実に記録や申し送りをするように努めている
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアミーティングを行い、利用者がいかににより良く生活を送れるかをスタッフ全員で話し合い、ケアの向上に努めている	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアミーティングを行い、ケアの見直しを行っている。急な変化が生じた場合は、状況に応じたケアプランの変更とサービスを行っている	ケアプラン期間終了前であっても、利用者の現状に応じて本人や家族の意向を踏まえてケアのモニタリングや計画の見直しを行っている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録は努めて詳しく記録するようしており、スタッフが気付いた恣意佐奈湖とも記録に残す事で情報をスタッフ間で共有し、ケアプランに活かしている	ただ行ったケア業務や水分量・食事摂取量・バイタルを漠然と記録するのではなく、接してわかる小さな気づきや利用者の発言などを具体的に記録するようしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連絡を取ったりホーム内で臨機応変にミーティングを行ったりして、利用者の安心できる環境の確保に努めている	利用者の体調の変化に応じて24時間体制で介護を実施したり、利用者や家族の状況に応じて予定日以外の病院受診を支援、努力するようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事があるときは出来るだけ参加し、地域の付き合いを大切にしていきたい。	利用者の希望で最寄の図書館に出向き、本の借り入れの支援をしたり、近所の小学校の生徒達との親睦会を通じて、子供達を慈しむ気持ちを大切にしている
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	数ヶ月ごとに訪問理美容を活用し、利用者に喜ばれている。	地域の「徘徊ネットワーク」や「ふれあいフェスタ」などで日頃から交流を行い、居室に空きがあるかどうかなどの連絡などを行っている
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	一人ひとりのケアを考えて、公のネットワークサービスや後見人制度などが必要かと思える場合には、今の生活状況等を含めた相談や情報交換を行いながら協働していきたい	
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を一番に考慮し、緊急の病気に備えて既往歴などを正しく把握し、対応できるようにかかりつけ医とも連携を取っている	利用者の心身を一番に理解している馴染みの病院を出来る限り継続して利用するようにしている。体調不良の時は、急変時に適切な処置、対応ができるように事前に主治医に相談したり家族にも報告を行うようにしている
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	まずは本人、家族の希望を一番に考慮し、認知症の医療にとっても理解のある医師を受診し、治療方針などの指示や相談を行っている	
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の小規模多機能施設の看護職員に、利用者の健康管理や状態変化の事を密に相談したり、最新の医療情報を聴く等、ケアの向上に努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		入所時の重要項目として、終末期への対応は現在行っていない旨を説明しているが、症状が重篤化する前に主治医や家族と話し合いを重ね、日頃の健康管理や急変時の対応など事業所として出来る限りの支援を検討して、本人や家族が安心できるような心がけている
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		移り先の関係者各位には、今までのケアなどの情報をプライバシーに配慮しながら情報交換をしている。また、本人や家族、移り先の関係者に了解を得て馴染みの職員が訪問に伺うなど、急激な環境の変化からのダメージ軽減に努めている
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		ミーティングなど日頃から折に触れ、職員の言葉や態度が利用者や家族にとってどれくらい大きな影響力があるかを認識するよう心がけている。また処遇記録研修にも参加し、個人情報保護法の大切さと利用者一人ひとりの尊厳の大切さを全職員に理解浸透するように努めている
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		一人ひとりの個性を尊重し、利用者に応じて職員側から意見を伺ったり、言葉に出せない思いなどは表情を読み取り、本人のサービス選択の幅を広げていくように努めたい
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		入浴の日時や回数、休息や就寝時間などを、その人の生活パターンに応じてそれぞれ支援している



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみが自立していない利用者には、その方に合った明るめで清潔感のある服装を選ぶようにしている	朝、洗面・整容に介助がいる方は、蒸しタオルにて顔を清拭し、櫛で整髪を行うようにしている。理美容は、希望のお店を利用できるよう支援し、希望のお店が無い方は、数ヶ月に一度の訪問理美容サービスを取り入れている
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者と職員が同じ食卓を囲み、同じ物を楽しく摂る様になっている。	利用者に応じて食事の材料や調理方法を変えたり、食べ易い形態への工夫を行うようにしている。また、本人の意向を伺った上で、食事前の台拭きや、配膳・下膳などのお手伝いをお願いしている
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は利用者の希望に沿って提供している	現在、お酒とタバコを嗜む利用者はいないが、おやつや飲み物などは利用者の好みや咀嚼・嚥下能力に応じたものを提供している。また、事業者からお出ししている物のほかに、希望によっては個人購入で希望のおやつや飲み物を楽しむよう支援している
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別記録を書き、各自の排泄パターンを把握し、無理強いないゆっくりとした誘導を心がけ、気持ちよい排泄を心がけている	排泄のタイミングやオムツやリハビリパンツなどの適した介助用品を考慮し、気持ちのよい排泄から出来るだけ清潔を保持できるように努めている。排便は回数だけでなく状態も申し送りを行い、水分強化やラジオ体操・散歩などの適度の運動を行い、薬での強制的な排便の減少を目指している
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調や気分を確認後、入浴していただいている。入浴拒否の激しい利用者の方は、家族の協力を得て、入浴を促す声掛けをお願いしている	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家族に持ってきていただいた寝具や寝衣にて、就寝時間を決めずに各々の居室にて休んでいただいている。不眠の訴えのある利用者は家族・医師と相談したうえで眠前薬などを処方し、ゆっくり休息が取れるように支援している	本人の希望を伺ったうえでラジオ体操や散歩を取り入れ、適度に体を動かしたり夕食後に歌を歌うなどして夜に気持ちよく良眠が保てるように努めている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句や歌など、思い思いの趣味を嗜んだり、中庭の散歩で気分転換を行ったり、食事の準備や洗濯物をたたむなどのお手伝いでの役割分担を通して、生活の中でその人らしい生き方の支援をしている	年に数回ボランティアによる演芸や踊りなどの慰問などを企画している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームにて預かり、病院受診や生活用品などで使用したときは必ず個人の現金出納帳に記載している。一人一人の希望に応じて、愛用の化粧品や食べ物の購入希望も支援している	
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の体調や希望に応じて、夕方にホーム周辺の散歩を日課にしている	天気のいい日のウッドデッキでの洗濯物干しや中庭にある畑への散歩も行っている
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの行事として、春や秋のお花見や外食ドライブを行っている	
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族や知人への電話希望や手紙の発送を支援している	
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は玄関を開放して、何時でも気軽に訪問しやすいようにしている。また、リビングや居室などその時々に応じて、利用者と一緒にゆっくりと過ごしていただけるような場所作りに努めている	
(4) 安心と安全を支える支援			
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアミーティングなどで話し、身体拘束は違法であり、自覚がないまま行ったり、安全のためだからという建前があると許されるという間違った認識がないように努めている	
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外は日中玄関は施錠を行わないようにしている。	外出しそうな利用者にはさりげなく声をかけ、お茶を勧めたり昔話や他の楽しみを提供している。家族にも協力を得て個別でドライブなどの外出に誘い気分転換を図っている。散歩も出来る限り自由に出来るよう、少し離れて見守りを行うようにしている
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	散歩など出来る限り自由に出来るよう、少し離れたところから見守りを行ったり、利用者の居室に入室する際は必ずノックや声掛けを行うように心がけている	日中は他の業務の最中にもさりげなく所在確認を行い、その時々々の体調や心情、安全の把握に努めている。夜間は安眠を考慮して数時間ごとに巡回し、24時間利用者の安全に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の持ち物をまず正確に把握し、どれがどんな時に必要でどんなところが危険かを確認するようにしている。		ホームの中にある包丁などの刃物や洗剤などが、不用意に放置されたりしないように注意を払う。自分で洗濯や入浴をする利用者には、職員がさりげなく見守りを行うようにする
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	思い思いに行動する利用者一人一人の生活パターンを理解したうえでミーティングなどで事前に予測される危険を検討している		誤薬や転倒等のヒヤリハットは必ず記録に残し、その時の勤務社員以外も危険事項を共有することで、同じような危険を防止できるように努めている
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時のマニュアルを目に付くところにおいている。		新しい職員も増えたので、改めて全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう、定期的な訓練を実施していきたい
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署の協力の下、火災時の避難訓練、初期消火訓練を行っている		今後は夜間時の火災避難訓練や水害・地震の実施を検討していきたい
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑圧感のない、本人の残存機能を活かせる生活を支援したい方針を家族に話している		利用者のADLの低下を把握し、その都度起こりうるリスクを家族にもお話しするようにしている
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックだけでなく、顔色・便通回数・食欲や水分摂取量などを個人別に把握し、異変に気づいたときにすぐに他の職員に相談報告を行い、場合によっては主治医に相談し指示を仰ぐようにしている		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から薬を処方された時は処方箋を個人別のファイルに保管し、必ず申し送りノートに服薬支援の方法(効能・回数・期間・注意事項等)を記録、口頭でも申し送りをを行い、情報を共有している		ミーティングでは、誤薬防止のためにどうしたら良いか話し合っている。処方箋の確認 一週間分の薬ファイルのセット確認 食事後の薬ボックスのセット確認 与薬時の声だし確認を行う事で誤薬のリスクを無くすように努めている
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の献立のバランスや水分摂取に気をつけている。排便チェック表を使い、一人ひとりの排便パターンを把握し、必要以上に薬に頼らずに自力で排泄できるよう支援している		ラジオ体操や散歩などの軽運動を取り入れている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自己にて口腔ケアが出来ない方は、朝・晩に口腔ケアの介助を行い、義歯の洗浄・預かりを行っている		利用者の口腔内で専門的なケアが必要なときは、行きつけの歯科や、無い時は訪問歯科受診を導入している
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は薄味・適量を心がけている。水分量や摂取量を記録し、個人の栄養状態や嗜好を把握するようにしている。利用者によっては配膳前に粗ほぐしや骨の摘除を行い、消化に良いように咀嚼の声掛けを行う		腎臓疾患や糖尿病など、食事に制限がある利用者には、出来る限り美味しく食事を食べていただけるよう、病院からのアドバイスや専門の料理本を参考にしながら献立を考えている
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	洗面所にはハンドソープと手指消毒液を置き、利用者・職員共に排泄や外出の後には手洗い励行をしている。インフルエンザなどの飛沫感染が流行する時は、病院受診時にマスクの着用を心がけている		毎年、全職員と利用者には了解を得てインフルエンザの予防接種を実施している
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具・布巾の消毒をこまめに行っている。食材の仕入れ場所にも気を配り、出来るだけ国産物の利用を心がけている		近くに農協の直営所もあり常に新鮮な食材が手に入る環境であるため、生鮮食品などは必要以上に買いためせず、新しい物を使って調理提供するようにしている
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開錠しており、気軽に訪問できるようにしている。また玄関ホールには花や書を飾り、ユニットごとの掲示板には季節の行事のお知らせや写真、かえで通信を掲示している		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに手作りの大きな月・日・曜日の日めくりカレンダーを設置している。リビングの大きな窓からはウッドデッキとその先の中庭が見え、天気の良い日には洗濯物や布団干しが見える		居室によっては太陽光の調節にすだれやよしずを使い、季節の変化を味わえるよう工夫をしている
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は利用者の希望や行動パターンを考慮して、自然と落ち着く場所を提供するようにしている		車椅子を使う利用者の割合が大きくなった為、リビング内の職員や利用者の動線にも配慮が必要になった

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスやテーブルなど各自好みの家具が置かれている。また、壁には家族の写真や似顔絵などが貼られ、利用者を和ませている		利用者が居室にて、自宅に居るような落ち着いた雰囲気の中で過ごせるように考えていく
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムにて居室の換気を行っている。また利用者に応じて冷暖房や窓の開閉にてこまめに温度調整に配慮している		各居室にも温・湿度計を設置し、定期的にチェックを行い、利用者により快適に過ごしていただけるようにする
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置している。また居室にも利用者の必要に応じて手すりをつけたりポータブルトイレへの異動時のための介助バーを設置している		利用者の行動パターンやADLを把握し、より安全に過ごせるようにスタッフ間の連携を密にしていく
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者自らや職員の声掛けにて洗濯物を置かれたりしている。また食後の食器類の下膳を自主的に行われている		機能低下を防ぐ為の簡単なリハビリや体操等をもっと積極的に取り入れていきたい
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにはベンチが設置しており、利用者が日光浴を楽しめる様にしている。また庭の一角には畑があり、利用者が野菜を作られて収穫を楽しまれている		活動に介助が必要な車椅子の方にももっと楽しんでいただけるようウッドデッキや中庭でのティータイムや食事・散歩など、外の空気に触れる機会をもっと増やしていきたい

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらい	
		利用者の1/3くらい	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりが安心して楽しく生活できるような環境づくり  
 個人個人の居間までの生活歴や病歴、心情等を踏まえたうえで無理が無いようにその人らしく生活できるようにケアプランを作成し、  
 ホーム内でミーティング等を行い、直ぐ対応できるようにしている  
 地域行事に参加したり、レクリエーション等に力を入れ実践している